

**製品名: SH-PTP1 (リン酸化Tyr536) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05425**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PTPN6
別名	PTPN6; HCP; PTP1C; Tyrosine-protein phosphatase non-receptor type 6; Hematopoietic cell protein-tyrosine phosphatase; Protein-tyrosine phosphatase 1C; PTP-1C; Protein-tyrosine phosphatase SHP-1; SH-PTP1
遺伝子 ID	5777.0
SwissProt ID	P29350
免疫原	抗血清は、ヒト SHP-1 の Tyr536 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 502-551

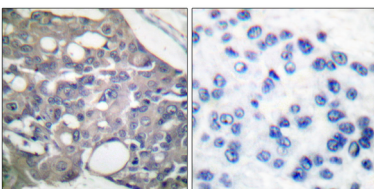
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ (PTP) ファミリーのメンバーです。PTPは、細胞の成長、分化、有糸分裂周期、および癌化を含むさまざまな細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子として知られています。この PTP の N 末端部には、タンパク質リン酸化チロシン結合ドメインとして機能し、この PTP とその基質との相互作用を媒介する 2 つのタンデムな Src ホモログ (SH2) ドメインが含まれています。この PTP は主に造血細胞で発現し、造血細胞における複数のシグナル伝達経路の重要な調節因子として機能します。この PTP は、造血細胞のシグナル伝達に関与する広範囲のリン酸化タンパク質と相互作用し、脱リン酸化することが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシングバリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、7月] 触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能: 造血において重要な役割を果たします。この PTPase 活性は、タンパク質チロシンリン酸化を介して、成長因子受容体やその他のシグナル伝達タンパク質と直接結合する可能性があります。SH2 領域は他の細胞成分と相互作用し、相互作用する基質に対する自身のホスファターゼ活性を調節する可能性があります。MTUS1 とともに、アンジオテンシン II 刺激により UBE2V2 の発現を誘導します。PTM: セリンおよびチロシン残基がリン酸化されています。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。非受容体クラス 2 サブファミリー。類似性: チロシンタンパク質ホスファターゼドメインを 1 つ含む。類似性: SH2 ドメインを 2 つ含む。細胞内局在: ニューロンにおいて、アンジオテンシン II 処理後に核へ移行する。サブユニット: モノマー。MTUS1 と相互作用する (類似性による)。PTPNS1、LILRB1、LILRB2 に結合する。FCRL2、FCRL3、FCRL4、CD300LF、CD84 と相互作用する。組織特異性: アイソフォーム 1 は造血細胞で発現し、アイソフォーム 2 は非造血細胞で発現する。、

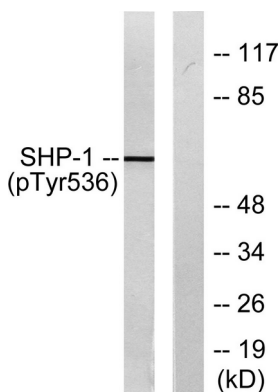
## 研究分野

B 細胞抗原; 接着結合; T 細胞受容体; MAPK; タンパク質アセチル化

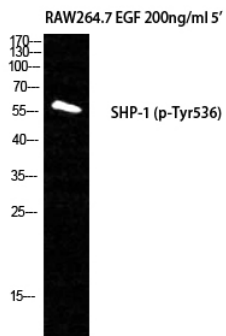
## 画像データ



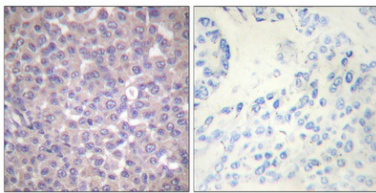
SHP-1 (リン酸化 Tyr536) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 5 'で処理した RAW264.7 細胞のライセートを、SHP-1 (リン酸化 Tyr536) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



RAW264.7+EGF 細胞のリン酸化 SH-PTP1 (Y536) ポリクローナル抗体を用いたウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。